

## 第 9 章 現金・預金

### ▼現金

現金	
前期繰越	支出(減少)
収入(増加)	
	} 残高

現金は資産の勘定で、増加したら借方に、減少すれば貸方に記入する。現金通貨・他人振出小切手・送金小切手・郵便為替証書等はすべて現金勘定で処理する。

#### 【仕訳例】

商品（原価 ¥50,000）を売り上げ、代金として通貨 ¥50,000 と他人振出小切手 ¥30,000 を受け取った。

現金	80,000	商品	50,000
		商品売買益	30,000

### ▼現金出納帳

現金収支の明細を記録する補助記入帳（補助簿）。

現金出納帳

平成 ○年		摘要	収入	支出	残高
5	1	前月繰越	850,000		850,000
	"	九州銀行へ預入		200,000	650,000
	3	福岡商店より売掛金回収 小切手他	150,000		800,000
	5	九州銀行より引出	50,000		850,000
	12	佐賀商店へ買掛金支払い		120,000	730,000
	25	3月分給料支払い		180,000	550,000
	31	次月繰越		550,000	
			1,050,000	1,050,000	
6	1	前月繰越	550,000		

※締切線は日付欄にも引くこと。

## ▼現金過不足勘定

手許有高と帳簿残高のが一致しない場合に、帳簿残高を手許有高に修正するときに用いる一時的な勘定。後日、過不足の原因が判明した時、その金額を現金過不足勘定から該当する勘定に振り替える。

## 現金過不足

現金不足の 原因	現金過剰の 原因
-------------	-------------

【現金不足のケース】 手許有高¥120,000 < 帳簿残高¥150,000

・発見時

現金過不足	30,000	現金	30,000
-------	--------	----	--------

・支払手数料の未記帳が判明(理由判明時)

支払手数料	30,000	現金過不足	30,000
-------	--------	-------	--------

・決算になっても原因が判らなかった場合

雑損	30,000	現金過不足	30,000
----	--------	-------	--------

【現金過剰のケース】 手許有高¥120,000 > 帳簿残高¥100,000

・発見時

現金	20,000	現金過不足	20,000
----	--------	-------	--------

・利息の受取が未記帳と判明(理由判明時)

現金過不足	20,000	受取利息	20,000
-------	--------	------	--------

・決算になっても原因が判らなかった場合

現金過不足	20,000	雑益	20,000
-------	--------	----	--------

## ※注意！

決算時に手元有高と帳簿残高の不一致を発見した場合は、現金勘定を直接修正する。

【例題】12月31日、決算につき手元現金を調査したところ、帳簿残高より10,000円少ないことが判明した。調査の結果、8,000円は支払利息の記入漏れであることが判明したが、残額は原因が不明のため雑損として処理することとした。

支払利息	8,000	現金	10,000
雑損	2,000		

現金過不足に関する本試験レベルの問題の解法・考え方については、弊塾ブログ「簿記・虎の穴」で詳しく解説しています。下記のQRコードまたはURLで直接関連記事にアクセスすることができますので是非ご確認ください。

簿記塾オッジ「簿記・虎の穴」現金化不足はこう解け！

<http://bokijuku.com/wp/?p=182>

## 【練習問題 10】

次の仕訳を行いなさい。

(1)現金1,000,000を元入して営業を開始した。

借 方		貸 方	

(2)那覇商店の商品売上の仲介をして手数料¥20,000を同店振出の小切手で受け取った。

借 方		貸 方	

(3)期中に現金の有高を調べたところ、帳簿残高は¥30,000、実際有高は¥26,000であった。

借 方		貸 方	

(4)上記(3)の現金過不足勘定で処理しておいた現金不足額のうち、¥2,500は支払利息の記帳漏れであった。

借 方		貸 方	

(5)上記(3)の現金過不足勘定で処理しておいた現金不足額の残高¥1,500は、決算日になってもその原因が判明しなかった。

借 方		貸 方	

(6)現金過不足勘定で処理しておいた現金過剰額¥2,000のうち、¥1,800は受取利息の記帳漏れで残額は決算日になっても原因が判明しなかった。

借 方		貸 方	

(7)決算にあたり現金実査を行った結果、実際有高が帳簿残高よりも¥900不足していた。なお、原因は不明である。

借 方		貸 方	

# 解答

## 【練習問題 10】

(1)

借 方		貸 方	
現金	1,000,000	資本金	1,000,000

(2)

借 方		貸 方	
現金	20,000	受取手数料	20,000

(3)

借 方		貸 方	
現金過不足	4,000	現金	4,000

(4)

借 方		貸 方	
支払利息	2,500	現金過不足	2,500

(5)

借 方		貸 方	
雑損失	1,500	現金過不足	1,500

(6)

借 方		貸 方	
現金過不足	2,000	受取利息	1,800
		雑収入	200

(7)

借 方		貸 方	
雑損失	900	現金	900

## ▼当座預金

当座預金	
前期繰越	引出(減少)
預入(増加)	
	} 残高

当座預金（資産の勘定）は小切手や手形の支払いを決済するために設ける商業目的の口座。  
法令により無利息、引出には小切手を用いる。

## 【仕訳例】

①九州銀行に手許現金¥300,000を預け入れた。

当座預金	300,000	現金	300,000
------	---------	----	---------

②備品¥100,000を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

備品	100,000	当座預金	100,000
----	---------	------	---------

③大阪商店から売掛金¥100,000を同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。

当座預金	100,000	売掛金	100,000
------	---------	-----	---------

※他人振り出しの小切手を受け取った場合は原則「現金勘定」で処理しなければならないが、上記例題のように「ただちに当座預金に預け入れた」という文言がある場合は当座預金勘定で処理を行う。

<del>現金</del>	<del>100,000</del>	売掛金	100,000
+			
当座預金	100,000	<del>現金</del>	<del>100,000</del>
↓			
当座預金	100,000	売掛金	100,000

## ▼当座預金出納帳

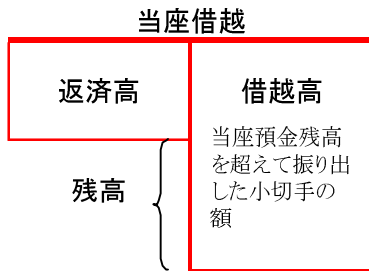
当座預金の預入と引出の明細を記録する補助記入帳（補助簿）。※銀行ごとに作成すること

## 当座預金出納帳

平成 ○年		摘要	預入	払出	貸借	残高
5	1	前月繰越	500,000		借	500,000
	"	預け入れ	200,000		"	700,000
	4	長崎商店へ買掛金支払い #001		250,000	"	450,000
	6	現金引出 #002		100,000	"	350,000
	12	鹿児島商店より売掛金回収	250,000		"	600,000
	22	福岡商店より仕入れ #003		300,000	"	300,000
	31	次月繰越		300,000		
			950,000	950,000		
6	1	前月繰越	300,000			

## ▼当座借越

あらかじめ取引銀行と当座借越契約を結んでおくと、当座預金残高を超えても一定限度額まで小切手を振り出すことができる。この場合は、銀行からの一時的な借入を処理する「当座借越」勘定（負債の勘定）を用いて処理する。



## 【当座預金勘定と当座借越勘定を用いた場合（二勘定制）の仕訳例】

①九州銀行と借入限度額¥200,000の当座借越契約を結んだ。（当座残高は¥300,000）

仕訳なし

②福岡商店より商品¥250,000を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

商 品	250,000	当座預金	250,000
-----	---------	------	---------

③長崎商店への買掛金¥180,000を小切手を振り出して支払った。

買掛金	180,000	当座預金	50,000
		当座借越	130,000

④備品¥50,000を小切手を振り出して購入した。

備 品	50,000	当座借越	50,000
-----	--------	------	--------

⑤鹿児島商店より売掛金¥200,000を回収し、ただちに銀行へ預け入れた。

当座借越	180,000	売掛金	200,000
当座預金	20,000		

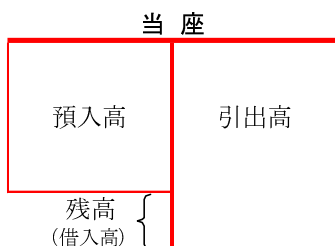
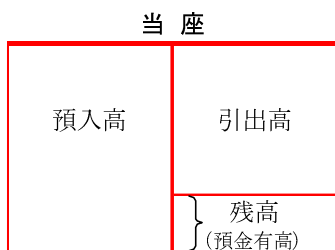
当座預金	
300,000	② 250,000
⑤ 20,000	③ 50,000

当座借越	
⑤ 180,000	③ 130,000
	④ 50,000

## ▼「当座」勘定を用いた場合

当座勘定とは、当座預金勘定と当座借越借越勘定の二つの性格を一つにまとめた混合勘定と呼ばれる特殊な勘定。当座預金の預入高を借方に、引出高を貸方に記入する。

残高が借方の場合は当座預金の残高を、貸方の場合は当座借越の残高を示す。



## 【上記①～⑤の取引を当座勘定処理した場合の仕訳例】

① 仕訳なし

② 商 品 250,000 当 座 250,000

③ 買掛金 180,000 当 座 180,000

④ 備 品 50,000 当 座 50,000

⑤ 当 座 200,000 売掛金 200,000

当 座		平成 〇年	摘要	借方	貸方	貸借	残高
×	×		残高	300,000		借	300,000
	②		商品		250,000	〃	50,000
	③		買掛金		180,000	貸	130,000
	④		備品		50,000	〃	180,000
	⑤		売掛金	200,000		借	20,000

## ▼その他の預貯金

普通預金・定期預金・郵便貯金等の預入、引出はそれぞれ個別の勘定を設けて処理するか、まとめて諸預金勘定を設けて記入する。

〔例〕定期預金 ¥500,000 が満期となったので、利息 ¥20,000 とともに普通預金に振替えた。

普通預金	520,000	定期預金	500,000
		受取利息	20,000

## 【練習問題 11】

次の仕訳を行いなさい。

(1)九州銀行に手許現金 ¥300,000 を預け入れた。

借 方		貸 方	

(2)備品 ¥100,000 を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

借 方		貸 方	

(3)九州銀行と借越限度額 ¥300,000 の当座借越契約を結んだ。

借 方		貸 方	

(4)長崎商店への買掛金 ¥180,000 を小切手を振り出して支払った。

ただし、当座預金勘定の残高は ¥50,000 で、当座借越契約による借越限度額は ¥300,000 である。

借 方		貸 方	

(5)鹿児島商店より売掛金 ¥200,000 を回収し、ただちに当座預金へ預け入れた。

現在、当座借越勘定の残高(貸方)が ¥130,000 ある。

借 方		貸 方	

(6)福岡商店より商品 ¥250,000 を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

なお、当店は当座勘定を用いて記帳している。

借 方		貸 方	

# 解答

## 【練習問題 11】

(1)

借 方		貸 方	
当座預金	300,000	現金	300,000

(2)

借 方		貸 方	
備品	100,000	当座預金	100,000

(3)

借 方		貸 方	
仕訳なし			

(4)

借 方		貸 方	
買掛金	180,000	当座預金	50,000
		当座借越	130,000

(5)

借 方		貸 方	
当座借越	130,000	売掛金	200,000
当座預金	70,000		

(6)

借 方		貸 方	
商品	250,000	当座	250,000



## ▼小口現金

通常、金銭の受け払いは当座預金口座を通して行われるが、日常発生する細かな経費（小口経費）の支払いは現金で行う。そこで、会計係はこれらの小口経費の支払いに必要な現金をあらかじめ小口現金係（庶務係）に小切手を振り出して前渡ししておく。

この前渡しした現金を小口現金といい、現金勘定と区別するために「小口現金」勘定で処理をする。

一方、小切手を受け取った小口現金係はこれを現金にかえておき、日々の小口経費を支払う。これを「定額資金前渡制（インプレストシステム）」といい、小口現金係の手許には月初（または週初）に一定額の小口現金が保有されることになる。

## 【会計係が行う仕訳の例】

- ①定額資金前渡制を採用し、小口現金係に¥10,000を小切手を振出して前渡した。

小口現金	10,000	当座預金	10,000
------	--------	------	--------

- ②日々の小口経費の記帳については、会計係は仕訳しない。

- ③小口現金係より、今週分の小口現金の支払い高について次のような報告があった。

交通費¥3,000 通信費¥1,500 消耗品費¥1,000 雑費¥500

交通費	3,000	小口現金	6,000
通信費	1,500		
消耗品費	1,000		
雑費	500		

- ④用度係に同額の小切手を振出して補給した。

小口現金	6,000	当座預金	6,000
------	-------	------	-------

- ※③と④が同時に行われた場合。

交通費	3,000	当座預金	6,000
通信費	1,500		
消耗品費	1,000		
雑費	500		

## ▼小口現金出納帳の記入例

小口現金係は、日々の小口経費の支払いを小口現金出納帳に記入する。

小口現金の補給が週の頭（月初）に行われるのか、週末（月末）に行われるのかによって次週繰越額（次月繰越額）が異なるので注意。

## 【週初（月初）に補給する場合】

## 小口現金出納帳

収入	平成 〇年		摘要	支出	内訳				残高
					交通費	通信費	消耗品費	雑費	
10,000	6	1	本日補給						10,000
		2	タクシー代	3,000	3,000				7,000
		"	郵便切手代	1,500		1,500			5,500
		4	文具代	1,000			1,000		4,500
		5	茶菓子代	500				500	4,000
			合計	6,000	3,000	1,500	1,000	500	
		6	次週繰越	4,000					
10,000				10,000					
4,000	6	8	前週繰越						4,000
6,000		"	本日補給						10,000

## 【週末（月末）に補給する場合】

## 小口現金出納帳

収入	平成 〇年		摘要	支出	内訳				残高
					交通費	通信費	消耗品費	雑費	
10,000	6	1	前週繰越						10,000
		2	タクシー代	3,000	3,000				7,000
		"	郵便切手代	1,500		1,500			5,500
		4	文具代	1,000			1,000		4,500
		5	茶菓子代	500				500	4,000
			合計	6,000	3,000	1,500	1,000	500	
6,000		6	本日補給						10,000
		"	次週繰越	10,000					
16,000				16,000					
10,000	6	8	前週繰越						10,000

## 【練習問題 12】

次の仕訳を行いなさい。

(1)定額資金前渡制度を採用し、小口現金係に¥10,000を小切手を振り出して前渡した。

借 方		貸 方	

(2)小口現金係より、今週分の小口現金の支払高について次のような報告があった。

交通費¥3,000 通信費¥1,500 消耗品費¥1,000 雑費¥500

借 方		貸 方	

(3)週明け、会計係は先週分の小口現金の支払いと同額の small 切手を振り出して補給した。

借 方		貸 方	

(4)小口現金係より、今週分の小口現金の支払高について次のような報告を受け、  
ただちに同額の small 切手を振り出して補給した。

交通費¥3,000 通信費¥1,500 消耗品費¥1,000 雑費¥500

借 方		貸 方	



# 解答

## 【練習問題 12】

(1)

借 方		貸 方	
小口現金	10,000	当座預金	10,000

(2)

借 方		貸 方	
交通費	3,000	小口現金	6,000
通信費	1,500		
消耗品費	1,000		
雑費	500		

(3)

借 方		貸 方	
小口現金	6,000	当座預金	6,000

(4)

借 方		貸 方	
交通費	3,000	当座預金	6,000
通信費	1,500		
消耗品費	1,000		
雑費	500		

## 【練習問題 13】

### 小口現金出納帳

収入	平成 〇年		摘要	支出	内訳				残高
					通信費	旅費交通費	消耗品費	雑費	
100,000	6	1	前月繰越						100,000
		3	タクシー代	5,000		5,000			95,000
		10	コピー用紙代	3,000			3,000		92,000
		〃	バス回数券代	20,000		20,000			72,000
		18	郵便切手代	10,000	10,000				62,000
		21	電話代	15,000	15,000				47,000
		25	茶菓子代	2,500				2,500	44,500
		28	新聞代	3,800				3,800	40,700
			合計	59,300	25,000	25,000	3,000	6,300	
		30	次月繰越	40,700					
100,000				159,300					
40,700	7	1	前月繰越						
59,300		〃	本日補給						